

# 第35回 栃木県営都市公園写真コンクール 審査会 【講評】

	賞	受賞者名	タイトル	撮影公園	審査員長コメント
選	最優秀賞	羽下 はるか	思いっきり遊べるって楽しい!	鬼怒グリーンパーク	人物の写真はなんと言っても表情が重要だが、この写真では無邪気さが表情だけでなく、走っている様子などからもよく伝わる作品となっている。公園で楽しむ人を大変良く表現できており、ジャンプする子供の瞬間性、動感と背景の公園の季節感など、見る人に色々と伝える物が多い。
	優秀賞	海老沢 好男	春の園	とちのきファミリーランド	写真はまず色で見えるものであるから、背景や近景の色も重要。この作品はスカッと晴れた青空を背景に、遊園地の遊具の鮮やかさ、それに負けないくらいの桜の花を写真の対角線からバランス良く配置している。満開の花のボリューム感とあわせ、ジェットコースターの乗客が手を上げ歓声やレールの音が聞こえてきそうな楽しい様子が想像できる素敵な一枚。
	優秀賞	吉葉 綾子	特別な時間	とちぎわんぱく公園	当たり前の日常を写真に切り取り、普段の何気ないところにストーリーを持たせている作品。背景のSLがとちぎわんぱく公園をよく表しており、またSLの大きさと、子どもの対比が表すスケール感も重要である。小さなお子さん2人が公園で過ごす様子がよく伝わる、心温まる作品となっている。
評	優秀賞	原田 早紀	キラキラハロウィン	とちぎわんぱく公園	普段見慣れている公園の映像と違って、作品性の強い写真。夕暮れの光で暖色系を中心とした色味、男の子のおっかなびっくりの様子など、ハロウィンの雰囲気を感じる。本作品は前ポケ越しに子どもに視点を誘導しており、子どもが一人だけの世界に居て撮影者が覗き込んでいる、と言う構図が目をついた。
応募作品 総 評					<p>前回までの応募作に比べ、お子さんなど撮影者の身近な存在である人物をとり入れた作品を多くご応募いただいた。</p> <p>また、「公園にこんな場所があったんだ。」という新発見をしていただけるような作品、人に伝える力の強い作品が多かった。</p>

審査員長	サトーカメラ株式会社 写真講師	佐藤 秀明
審査員	栃木県公園事務所 所長	笹沼 政行
審査員	公益財団法人栃木県民公園福祉協会 理事長	熊倉 一臣